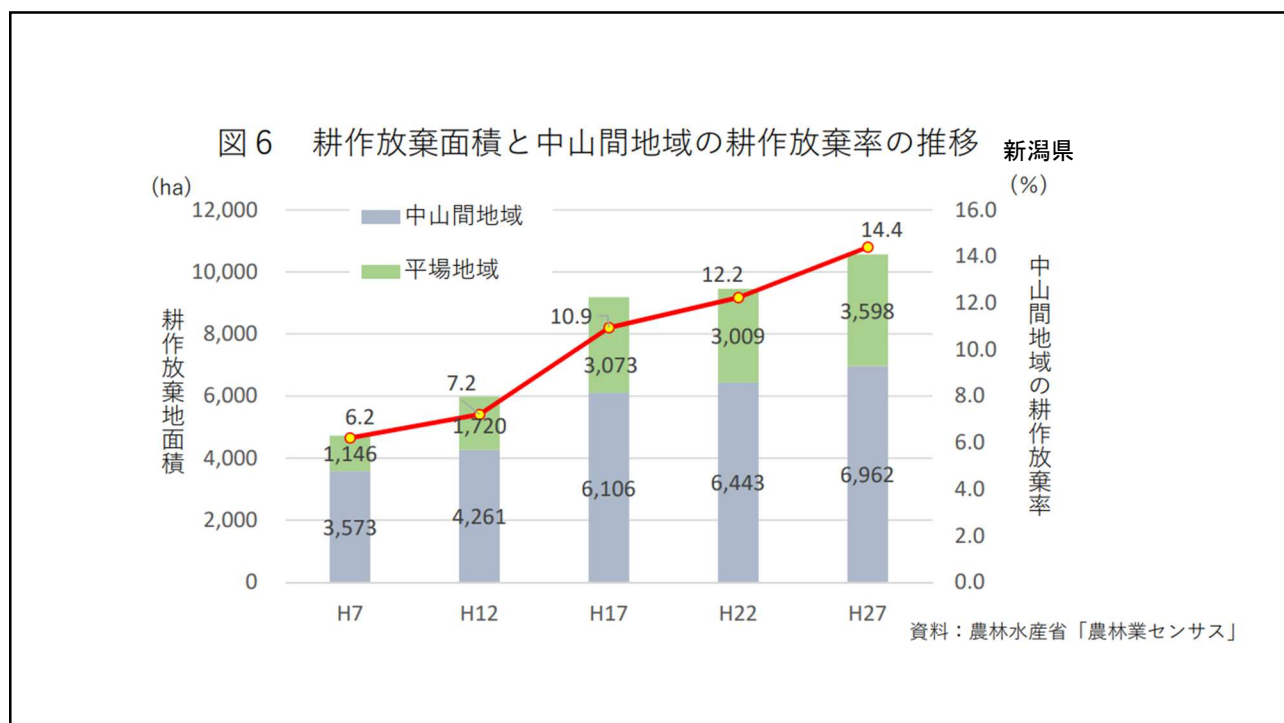


SDGsに基づく「責任ある生産」と 「意志のある消費」を結ぶ提案

2022. 2. 6
新潟産業大学附属柏崎研究
所長 春日 俊 雄

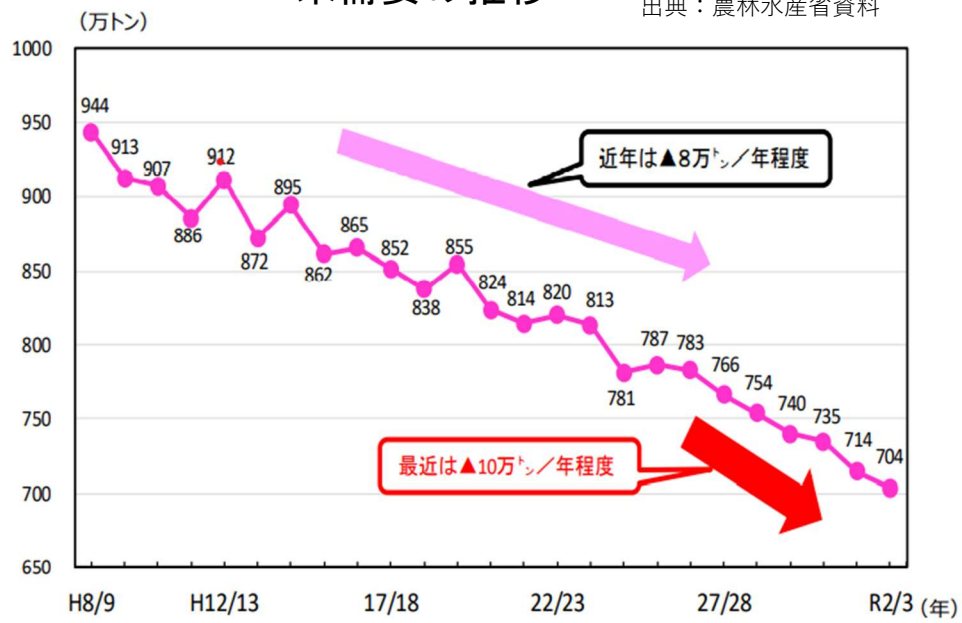
（私の略歴）

- ・1951年生まれ、新潟県柏崎市高柳町（旧刈羽郡高柳町）出身
- ・1974年より行政マンとして大阪府松原市役所、新潟県刈羽郡高柳町役場、柏崎市役所に勤務。
2011年退職。
- ・1983年から本格的に地域づくりに取り組む。住民と行政による協働活動や小さなブランドづくりによる
農山村滞在型交流観光プロジェクトで地域活性化に取り組む
 - ・観光カリスマ、＜観光庁＞（H15 年度～）
 - ・地域活性化伝道師＜内閣府＞（H19 年度～）
 - ・新潟産業大学経済学部特任講師（H29 年度～）
 - ・新潟産業大学附属柏崎研究所長（H30 年度～）
 - ・新潟産業大学地域連携センター長（R2 年度～）
 - ・新潟県観光立県推進行動計画検討委員（R2 年度）



米需要の推移

出典：農林水産省資料



中山間地域との「つながり（共感）」
の可能性は？

米の需要が落ち込んでも
「確実に売れる販路の開拓」
 が農業・集落・地域の持続には重要！！

＜しかし、売ればそれで良いのか＞



自分ごと→皆ごと→地域ごと→「世の中ごと」

生産者・消費者の関係 →(つながり)→ 共に豊かな生活者
 「新たな社会関係資本」 ※ 高橋博之氏

SDGs(持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標



すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および働きがいのある人間らしい仕事を推進する



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

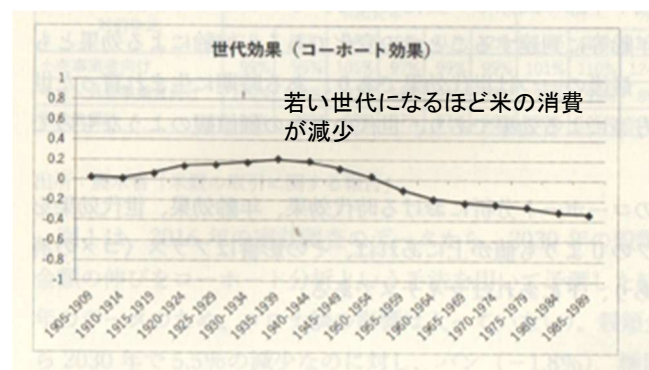
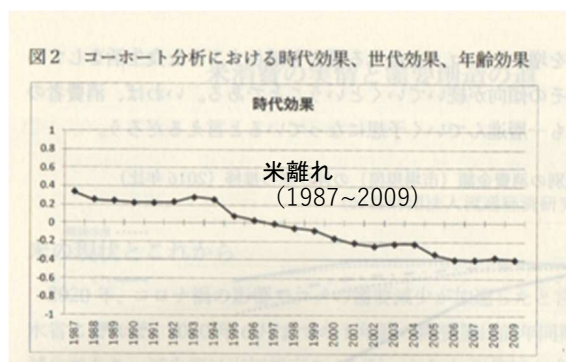


持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

「責任ある生産」と「意志のある消費」 ＜春日提案＞

現在の米需要の動向と今後の「つながり」による米消費の具体的なニーズの可能性は？

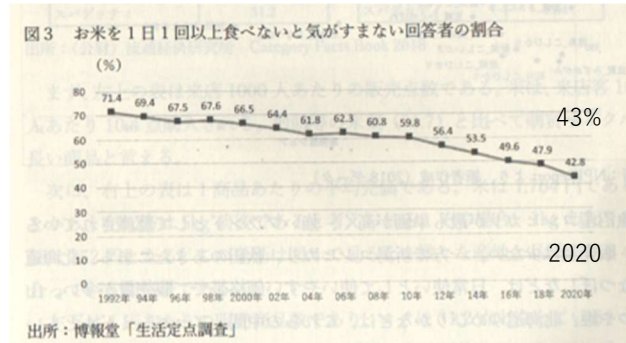
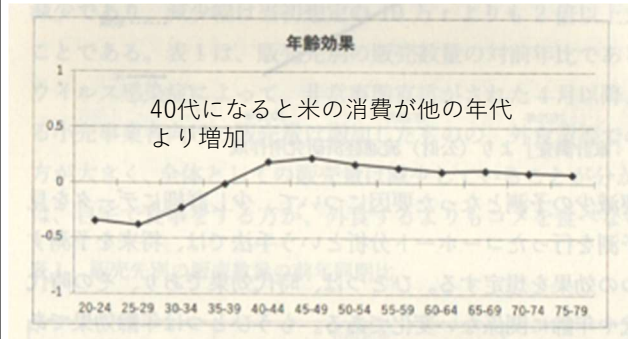
（公財）流通経済研究所 主席研究員 折笠俊輔氏



出所：総務省統計局「家計データ」より、（公財）流通経済研究所作成

【2021.8 米産業に未来はあるか（一財）農政調査委員会編】

(公財) 流通経済研究所 主席研究員 折笠俊輔氏



※ 子育てには米の需要があり、子育て世代のニーズに合わせた商品づくり



「予約に基づく生産」＋「日本の米文化（米の食べ分け文化）を再構築」（春日提案）

品種登録560品種、うるち米440品種、ご飯用作付け274品種

都市と地方の「新たなつながり」を協創

「協」：「力を合わせる」「話し合って物事をまとめる」

「創」：「はじめる」「作る」

中山間地域（日本のふるさと地域<春日>）の持続的振興
「中山間地域住民 ＋ 共感する都市住民」

< 背景：車社会・デジタル社会・生き方＆考え方の多様化・幸せ感 >



市場経済周辺の空白エリアに「ポジショニング」
そこに「つながり」をベースにした「小さな場」を作る



中山間地域の資源 → 「つながり場」の具体的なニーズ
→ コラボレーション ⇒ ①新たな地域＆経済価値を生み出す



②持続的な社会と双方の幸せ感を育む